

西東京市

図書館だより

平成25年(2013年) 10月1日

第51号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

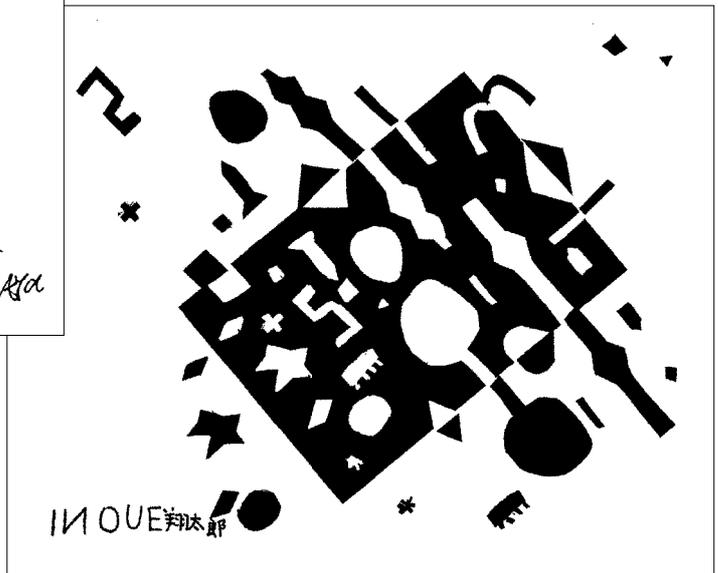
西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



▲ 住吉小4年



▼ 住吉小4年

共に成長する図書館

図書館では、毎年、『西東京市図書館事業概要』を発行しています。この冊子は、二十ページほどのもので、西東京市図書館が実施した事業の年間実績が掲載されています。

その中で、西東京市図書館の運営方針の「基本的な考え方」を、「西東京市図書館は、市民ひとりひとりが自ら学び、考え、成長し、決定し、自らの責任で行動するために必要とされる知識や情報を分け隔てなく市民すべてに提供する公共サービス機関である。市民の成長を支援する機関であるために、時代に適合した品質の高いサービス提供に積極的に取り組み成長する図書館であり続ける」と延べています。

図書館を利用する市民、あなたにも納得していただける行き届いたサービスを提供し続けていくことは、容易ではありません。おしかりを受けることもしばしばあります。大概は、図書館サービスの向上にプラスになればと考えてのご意見です。図書館がそれを参考にして、新しいサービスを開始することもあります。

たとえば、インターネットを利用したサービスもその一つです。一九七五年に開館した当時は貸し出しを中心としたカウンターサービスが主流でした。社会が変化した現在では、蔵書に関する情報を速く適切に提供するサービスが求められています。来年三月には、新しい図書館システムが稼働する予定です。検索機能が充実し、今よりも資料が探しやすくなると思います。図書館ホームページについても、より使いやすい画面作りに取り組んでいます。

西東京市図書館は、市民が自ら学び、考え、行動するのに必要な知識や情報を、これからも提供し、成長を支援する公共サービス機関として、利用者のみならずと共に成長していきます。

★声の広報をお届けしています。

お問い合わせの方ご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを

没後二十年、児童文学作家・安房直子さんを偲んで

多くの児童向けのファンタジー作品を世に送り出した作家、安房直子さんが亡くなられてから今年で二十年になります。安房直子さんは、生前長く西東京市(旧保谷市)に暮らし、この地で執筆活動が続けていらっしやいました。当時の下保谷図書館に來館されたこともあったそうです。地域・行政資料室では、市に縁のある作家として安房直子さんの単行本や関連資料等を収集、保存しています。その中には、『花豆の会』(一九九〇年)～『二〇一二年』。安房直子さんの作品を語り継ぐことを目的として(結成)から寄贈された貴重な資料もあります。

没後二十年の今年、図書館では、市内で活動する『安房直子倶楽部』(詳

おはなし会
～安房直子の不思議な世界～
 代表的な作品を人形劇や絵本の読み聞かせで。
 日時 10月6日(日)
 第1部(3歳児～小学生) 13:30～14:30
 第2部(小学生以上。大人も可) 14:30～15:30
 場所 田無公民館視聴覚室
 共催・公演者 安房直子倶楽部
図書館の展示
 期間 10月1日(火)～10月31日(木)
 場所 中央図書館
 ※詳細については、図書館ホームページ、館内ポスター、チラシをご覧ください。



『花豆の煮えるまで―小夜の物語―』
 作者：安房直子 画家：味戸ケイコ 偲成社

細については後述)にご協力いただき、安房直子さんを偲ぶ催しを行います。この機会に、是非、大人の方にも、安房直子さんの幻想的な作品の世界を味わっていただけたらと思います。

安房直子さんに導かれて
 『安房直子倶楽部』代表 横田 千恵子

安房直子さんは、教科書でも紹介された『きつねの窓』などで知られる児童文学作家です。

西東京市に移り住んだ十数年前、図書館で安房直子さんの本を借りました。すると表紙の裏に『在住作家』の文字を発見。その少し前に『鳥』という作品を読んで大ファンになった私は嬉しいご縁を感じ、それ以来安房さんの作品の魅力に取りつかれていきます。

図書館だより版 「にんにん西東京 第3回「古文書」



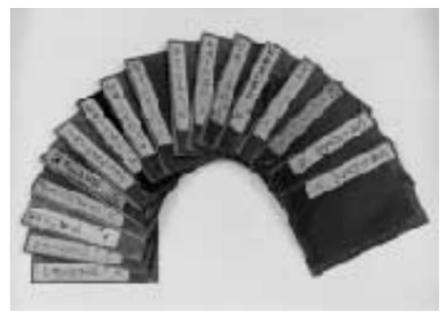
地域・行政資料室では『田無市史』や『保谷市史』編纂の際に収集された資料を『市史編纂資料』として整備しています。その中には市内の旧家が保存してきた文書類や江戸・明治からの市所有文書があります。それらは原本の複写資料、原本を修復し製本した史料、あるいはそのままの状態での封筒に入れた史料等で、分類し保管されています。

また、西東京市指定文化財の『地租改正絵図』や『元禄三年田無村検地帳』等、百〜三百年前に書かれた絵図や文書類もあります。

これらを「古文書」と呼んでいます。現代人である私たちは、近世や近代に生きていた日本語を簡単には読み解くことが出来ません。小説を読むように内容が理解できたらと誰もが考えることでしょう。

講座で活字化される古文書

そこで、平成二十三年度から古文書講座「寺子屋式古文書手習い」かな読みに始まり冊子を読み上げるまで「」を開催しています。今年で三回目を迎えますが、第一回、第二回それぞれ受講生有志の方々が自主グループを作り勉強を続けています。講座テキストは、吉田豊講師のこ



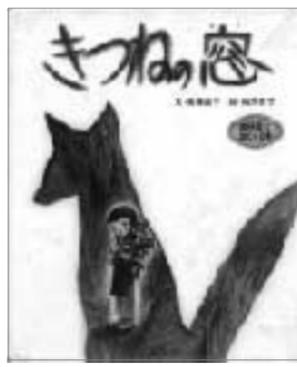
公用分例略記(下田家文書)

レクシオンから「草紙(寺子屋の教科書・家庭用の各種手引書・大衆小説)等をご提供いただいています。『和本のすすめ』(中野三敏著・岩波書店)に、「明治以前に出来た和本の総点数は：百万点を越す」というのが妥当な数ではなからうか(これもかなり内輪な計数のつもりである)。その中のどれほどが活字化されているのだろうか。…とても一万点を越すとは思われない。…総数のわずかに1%に満たぬことになる」とあります。

吉田講師にご提供いただく和本も活字化されていません。受講生の皆さんが全五回の講義で学び、解読し、和綴り製本した資料が初めての活字版となります。寄贈していただいた

わい作品である一方で、失った何か呼び覚まされるようなそんな不思議な感覚に包まれます。はまた心の闇をつついてくるようなちよつと怖い話も…。児童文学でありながらその枠を超えた何かに大人も惹きつけられるのかもしれない。

西東京市は大変朗読が盛んで、朗読会でもよく安房作品が読まれています。ところが意外に地元の方には彼女が生前この町で暮らして作品を生んでいたことは知られていません。亡くなって二十年、なんとか地元とそのすばらしい作品を伝えていくことはできないか…そんな思いで『安房直子倶楽部』を発足しました。まだメンバーはたったの五人。毎月第二日曜日、田無公民館で安房さんの残したたくさんのお話を読んで楽しんでいきます。



『きつねの窓』
 作者：安房直子 画家：織茂恭子 ポプラ社

地域・行政資料室には彼女の作品が多数保管されています。みなさんぜひ一度足を運んで彼女の世界に触れてみてください。

これらの作品は、地域・行政資料室でご覧になれます。

旧家が所有する古文書

市史編纂資料には名主も務めた旧家、『下田家文書』(約三千点)、『蓮見家文書』(約千五百点)があります。これらは、主に江戸時代の村方に存在した資料で、「地方文書」と呼ばれます。下田家は享保十六年(一七三一)に初めて田無村の名主を務めて以降、名主を歴任します。蓮見家も享保九年(一七二四)から下保谷村の名主を世襲しています。

下田家文書の『公用分例略記』は、代々の当主が書き残したものを、嘉永六年(一八五三)に下田半兵衛富潤が選択し、「訴(幕府の奉行所・代官所、尾張藩の役所へ提出した文書の控、名主半兵衛宛の村内外からの文書全七巻と、『触(幕府の奉行所・代官所、尾張藩の役所からの触)』全十巻とに分類し書き写したもので、次の当主下田半兵衛富栄が慶応三年(一八六七)まで書き継いでいます。

蓮見家文書は、寛永十六年(一六三九)から昭和二十年(一九四五)までの村政や同家の私的文書及び書籍で構成され、江戸時代からの下保谷地区と蓮見家の歴史を考察するための有効な史料です。

受講生の手による新たな地域資料

古文書講座受講生のお一人が、こ



寄贈された資料

の名主文書から課題を選択し、解読分析、製本した冊子を寄贈してくださいました。『幕末期における下保谷村と近村との関係』『保谷市史料所 在目錄・蓮見家所蔵文書目録・人別関係文書抄』『田無市史編纂資料田無村人別関係文書抄』『下田家文書目録』【訴訟・出入】関係文書抄』です。解読された方は、歴史や文書に対して既に知識をお持ちだったのかもしれない。しかし、テキストから次のステップへと進まれた古文書に対する旺盛な探究心に敬服します。そしてこの冊子は、新たに地域・行政資料として郷土の歴史を伝える役割を果たしてくれそうです。

図書館が所蔵する古文書等の歴史資料に触れることで、先人の姿が身近に感じられるかもしれません。これからも公開に努めると共に、かな読みから始めて古文書を学ぶ機会を提供したいと考えています。

平成24年度の実績報告(平成25年3月31日現在)

詳細については「平成24年度西東京市図書館事業概要」をご覧ください。図書館ホームページにも掲載しています。

1. 基本指標		3. 蔵書数																
市民一人当たりの蔵書冊数(図書)(蔵書冊数÷市人口)	4.0冊/人	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">資料種別</th> <th>所蔵数</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">図書</td> <td>一般図書(冊)</td> <td>499,688</td> </tr> <tr> <td>児童図書(冊)</td> <td>193,349</td> </tr> <tr> <td>地域行政資料(点)</td> <td>88,929</td> </tr> <tr> <td>雑誌(タイトル数)</td> <td>689</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C D・カセットテープ(点)</td> <td>15,961</td> <td></td> </tr> </table>	資料種別		所蔵数	図書	一般図書(冊)	499,688	児童図書(冊)	193,349	地域行政資料(点)	88,929	雑誌(タイトル数)	689		C D・カセットテープ(点)	15,961	
資料種別			所蔵数															
図書	一般図書(冊)		499,688															
	児童図書(冊)		193,349															
	地域行政資料(点)	88,929																
雑誌(タイトル数)	689																	
C D・カセットテープ(点)	15,961																	
登録率(市内在住個人登録者数÷市人口)	20.9%																	
一日平均貸出冊数(各図書館の一日平均の合計)	8,543冊/日																	
蔵書回転率(個人図書貸出数÷蔵書冊数)	2.9回																	
市民一人当たりの貸出数(個人貸出数÷市人口)	12.4冊/人	5. 予約数 (件)																
登録者一人当たりの貸出数(個人貸出数÷個人登録者数)	44.7冊/人	<table border="1"> <tr> <th>予約方法</th> <th>予約数</th> </tr> <tr> <td>カウンター(件)</td> <td>69,187</td> </tr> <tr> <td>館内OPAC(件)</td> <td>93,664</td> </tr> <tr> <td>WebOPAC(件)</td> <td>558,563</td> </tr> <tr> <td>未所蔵予約(件)</td> <td>26,062</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>747,476</td> </tr> </table>		予約方法	予約数	カウンター(件)	69,187	館内OPAC(件)	93,664	WebOPAC(件)	558,563	未所蔵予約(件)	26,062	合計	747,476			
予約方法	予約数																	
カウンター(件)	69,187																	
館内OPAC(件)	93,664																	
WebOPAC(件)	558,563																	
未所蔵予約(件)	26,062																	
合計	747,476																	
2. 登録者数 (人)		4. 個人貸出数																
西東京市	41,236	<table border="1"> <tr> <th>資料種別</th> <th>貸出数</th> </tr> <tr> <td>一般図書(冊)</td> <td>1,545,087</td> </tr> <tr> <td>児童図書(冊)</td> <td>698,809</td> </tr> <tr> <td>雑誌(冊)</td> <td>125,696</td> </tr> <tr> <td>C D・カセットテープ(点)</td> <td>80,132</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,449,724</td> </tr> </table>	資料種別	貸出数	一般図書(冊)	1,545,087	児童図書(冊)	698,809	雑誌(冊)	125,696	C D・カセットテープ(点)	80,132	合計	2,449,724				
資料種別	貸出数																	
一般図書(冊)	1,545,087																	
児童図書(冊)	698,809																	
雑誌(冊)	125,696																	
C D・カセットテープ(点)	80,132																	
合計	2,449,724																	
広域圏(8市)	5,783																	
その他	7,733																	
合計	54,752																	

※登録者数は有効登録者数。
 登録者のうち、当該年度(4月から翌年3月までの1年間)に貸出回数が1回以上ある利用者の数

日本の歴史に取り組み始めてはや八年。当初は一冊の本をしつかり読み込めば、という能天気な態度で臨んだ訳ですから、惨憺たる結果でした。

そんな私にも転機が訪れたのです。そこで、「私の歴史理解の最初の一步と図書館とのかかわり」について述べてみたいと思います。

史実に当たっていると引用文献や参考文献が数多く示されています。ここはひとつ他の

の人の視点と理解したものをテコにして、自分のそれらを再検討してみようという試みでした。参考文献といっても稀少本・絶版本・古文書・高価で膨大なページ数のものなど、とても自分の手に負える代物ではありません。善は急げ。近くの中央図書館へ。そこには私が必要とする史料が眠っているはずだと思っていました。

当時、「蚕社の獄」に取り組み、四苦八苦していました。歴史に人がかわらないものはない、そのことから人物中心に史実を追う方針に切り換えたのが第二の転機。

渡辺崋山を中心に、周辺の学者、尚歯会員、幕府の役人、具体的には



高野長英、小関三英、大蔵永常、藤信淵、江川英竜と鳥居耀蔵。事件後の彼らのスタンスのとり方を絞る、関連文献を追い続けました。文献が多く錯綜するのは避けられませんが、手がかりを求め我慢に我慢を重ねていると、わずかながら崋山像が少しずつ浮き彫りになってくるではありませんか。

ここで自分のテキストの自らの崋山像を基にして、浮き彫りにされた崋山像との比較、調整を経ることで、ようやくというか、やっと自分なりの崋山像と事件全貌を描くことができたのです。

諦めず追い続けることで転機を呼び込み、自分の創意・工夫を生かすことができたのです。こういう経験を重ねると、文献・史料は図書館に「眠っている」のではなく「お前の蒙を啓くために俺は待ってんだ。早く来んか」と、こういうことになります。かくて「眠っている」のは「私」であることが知らされて以来、足繁く、私の図書館通いが続いている訳なのです。

ひばりが丘図書館 休館のお知らせ

ご予約資料は谷戸図書館で
お受け取りください

ひばりが丘図書館は、空調改修工事のため、10月15日(火)から11月11日(月)まで休館します。

休館中の予約の取り扱いは、左記のとおりです。

なお、休館中は、講座室も利用できません。

長期間、ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

【予約資料の受け取りについて】
ひばりが丘図書館を受取館とした予約資料は、10月16日(水)から11月10日(日)まで、谷戸図書館で受け取ることが出来ます。谷戸図書館の開館時間は午前10時から午後6時まで、休館日は月曜日と11月5日(火)です。

谷戸図書館以外の館での受け取りを希望する場合は、10月14日(月)まではひばりが丘図書館、10月16日(水)以降は谷戸図書館へご連絡ください。

なお、11月12日(火)午前10時以降は、ひばりが丘図書館で受け取る事が出来ます。取置期限内にご来館ください。

【受取館の指定について】
10月13日(日)午後6時から11月12日(火)午前10時までの間は、予約資料の受取館にひばりが丘図書館を選ぶことはできません。他の館を利用

して、ください。
【ひばりが丘図書館所蔵資料の予約について】
10月14日(月)午後6時から11月10日(日)午後7時までの間、ひばりが丘図書館所蔵の資料を予約することはできません。ご了承ください。

詳細については、図書館ホームページ、館内ポスター、チラシ等をご覧ください。

【連絡先】
ひばりが丘図書館
042-424-0264
※10月14日(月)まで
谷戸図書館
042-421-4545
※10月16日(水)～11月10日(日)
中央図書館
042-465-0823

安房直子さんの著作を改めて読み返してみました。ふんわりと暖かい春の野原のような優しい印象の作品。風いだ海に一艘浮かぶ夏の小船のように、おおらかでのびのびとした気分になれる作品。一方、生きていくことの悲しみや切ない別れ、幸福の隣にある小さな不幸などを描いた物語もありました。今回は、そんな、人生において避けて通ることのできない秋や冬のような作品たちに、より心をとらえられました。皆さんは、どの物語に共感されるでしょうか。

